春まきタマネギと夏まきブロッコリーの輪作体系

福島県農業総合センター　浜地域研究所・作物園芸部野菜科

部門名　野菜－タマネギ－作型・栽培型
担当者　大越聡・笠井友美・門田敦生

Ⅰ　新技術の解説

1　要旨

春まきタマネギの栽培期間は１月～７月と短いため、他の作物との輪作が期待できる。ここではブロッコリーの播種晩限を明らかにするとともに、夏まきブロッコリーとの輪作体系を実証し収益性を評価した結果、ブロッコリー単作と比較して所得が 55％程度向上した。また、春まきタマネギの早生品種を導入することで、栽培面積の増加による経営安定も期待できる。

（１）１月中旬播種、３月下旬定植の春まきタマネギ(品種：もみじ３号)と夏まきブロッコリーとの輪作体系では、ブロッコリーの収穫を年内に終了するために、播種を８月８日まで、定植を９月５日まで(相双地方標準)に実施する必要がある。

（２）実証農家の事例等をもとに試算した所得は、夏まきブロッコリーのみでは約 64 千円/10a、春まきタマネギ＋夏まきブロッコリーは約 115 千円/10a であり、春まきタマネギ 3ha＋夏まきブロッコリー2ha の栽培が可能であった。

（３）さらに、春まきタマネギでは早生品種(ターザン、ハッピー501)を導入することで収穫時期が分散され、乾燥調製作業や夏まきブロッコリーの作業に余裕が持てることで、春まきタマネギ 3ha＋夏まきブロッコリー3ha の栽培が可能と試算された。

2　期待される効果

（１）夏まきブロッコリーと春まきタマネギの輪作による収益向上

3　適用範囲

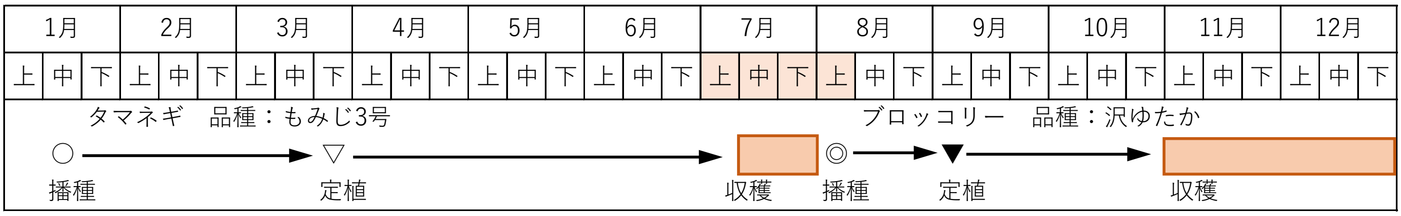
（１）中通りと浜通りの平坦地。

4　普及上の留意点

（１）作業人数３名、タマネギ収穫時間を 20a/日、ブロッコリー収穫調製作業時間 7.3a/日、作業可能日数率 0.8 と想定した。9 月 5 日までに定植可能なブロッコリーの収穫日と栽培可能面積は AMeDAS 相馬平年値と定植後積算気温から推定した。

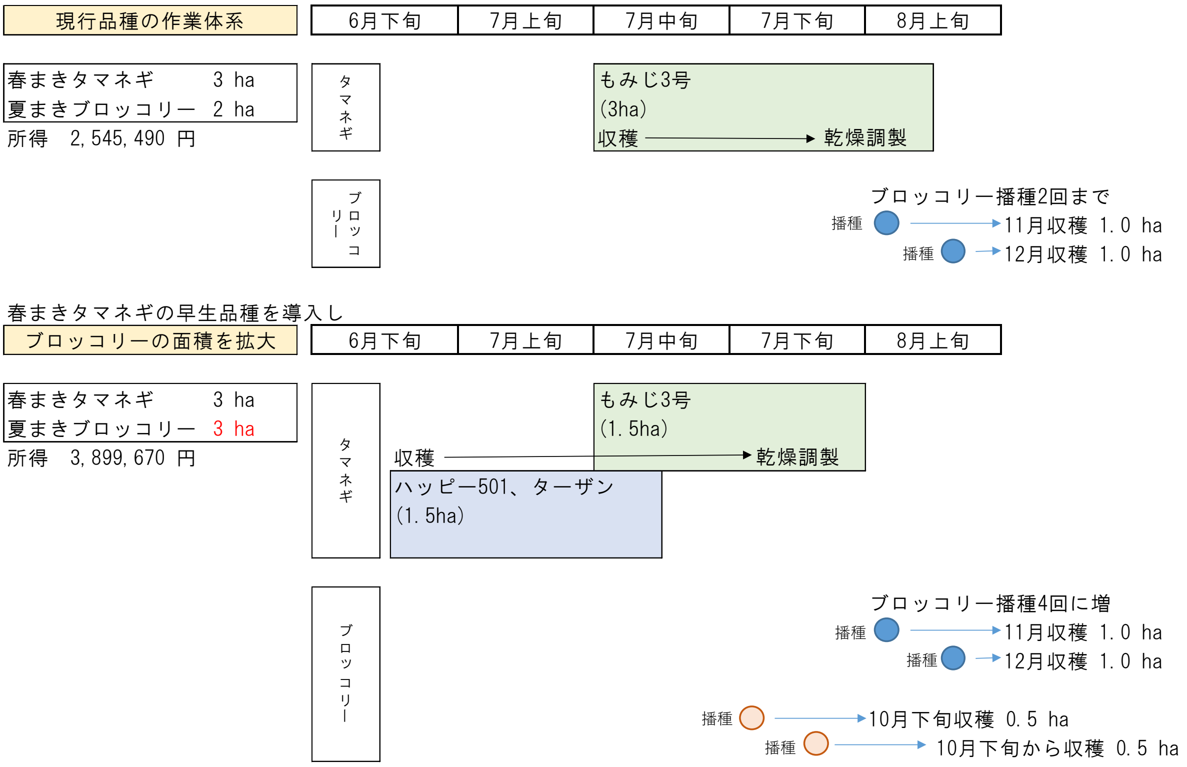
（２）水稲 10ha、夏まきブロッコリー2ha の経営体において、１／３補助事業を利用し、現地で使用されている一般的なタマネギの機械を導入することを前提として試算した。

Ⅱ　具体的データ等



年内収穫の播種晩限 8/8　　年内定植の定植晩限 9/5

図 1. 試算した春まきタマネギと夏まきブロッコリーの輪作体系



※作業人数3名、タマネギ収穫20a/日、ブロッコリー収穫調製7.3a/日、収穫可能日数率0.8

図 2. 春まきタマネギにおける早生品種導入体系

Ⅲ　その他

1　執筆者

大越聡、三好博子

2　成果を得た課題名

（１）研究期間　　平成２９年～令和元年度

（２）研究課題名　　水田経営へのタマネギ等高収益野菜の導入による収益向上の実証
（革新的技術開発・緊急展開事業）

3　主な参考文献・資料

（１）平成２７年度普及成果「浜通りでの７月収穫を目指した春まきタマネギ栽培」

（２）令和元年度参考成果「福島県の春まきタマネギ栽培に適する品種」

※本研究は、農研機構生研支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）」の支援を受けて実施した。